部活動の地域展開を考えるワークショップにおける意見のまとめ

日　　時	会　　場	対 象 者	参加者数
7月2日(木) 19:00～21:00	千厩市民センター	地域部活動登録団体の関係者	16名
7月9日(木) 19:00～21:00	一関ヒロセユードーム		12名

テーマ：「地域クラブ活動への移行は可能か」

(1) 部活動の現状や課題など

・用具代の高騰などが各チームの負担増となっている。
・保護者に地域移行（地域展開）の情報が届いていないため、状況を把握できていない。
・地域部活動は学校の関与があるため、保護者の負担が少なく運営できている。
・地域部活動は育成会が母体であるため、保護者が数年で入れ替わるといった課題がある。
・部活動が一極集中して人数が多くなり、試合に出られないこどもが多くなった。
・合同チームは毎年組合せが変わるため、翌年以降の活動が不安である。
・多くの会議が平日開催であるため、保護者は仕事を休む必要があり負担が大きい。
・中総体に出場するためにクラブチームの活動から地域部活動に戻った生徒もいる。

(2) 地域クラブ活動への移行についての意見

・こどもの選択肢を増やすという目的とのことだが、結果としてこどもの取り合いとなり、充実した活動にならないのではないか。
・市や学校の方針を明確にしてもらわないと、どのように移行したらよいかがわからない。
・活動場所の確保や道具の保管など、学校の関与がなければ活動は難しい。
・クラブの活動内容や目標、指導方針の情報を中学校入学前から周知する体制が必要である。
・継続して指導者や事務局を担う人材を確保しないとクラブの維持は難しい。
・「指導者、役員、事務局」を担う人材の育成が必要である。
・クラブ運営について相談できる窓口が必要である。
・中総体に参加できるかどうかが、地域クラブ活動へ移行する判断の一つとなる。
・地域に丸投げするのではなく、学校や保護者など関係者との連携でよい形になってほしい。
・地域にある既存の成人チームと連携することで受皿となりえないのか。
・これまで先生が行っていた事務作業を保護者ができるのかが不安である。
・他地域と一緒になると派閥ができ運営が上手くいかないという声も聞くので、認定に当たっては、地元のこども達だけで創設できる柔軟な要件にしてほしい。
・財政支援のメリットがないと移行は進まないと思う。
・競技ごとに地域クラブ活動の運営者を募集して創設した方がよいのではないか。
・運営費は受益者負担だが、財政支援がないと負担が増えスポーツ離れにつながる。
・学校部活動を廃止すると宣言しないと、移行は進まないのではないか。
・市で全体像を作って活動場所、用具保管、移動など総合的なものを示されると進めやすい。

部活動の地域展開を考えるワークショップにおける意見のまとめ

日　　時	会　　場	対 象 者	参加者数
８月６日(木) 19:00～21:00	一関ヒロセユードーム	スポーツ並びに文化芸術関係団体の関係者	13 名

テーマ：「部活動の地域展開を考える」

(1) 各団体の活動の状況や課題など
・合同チームは、大会ごとシーズンごとに違うチーム体制となり、バレーボール競技にあっては、現在、男子３部、女子８部あるがチームが組めればよし、県大会に出られればよしという状態である。 ・指導者不足の声が多い。スポーツ少年団の場合は、指導者になっても子の卒業と同時にいなくなる。 ・協会の会員数は、ピーク時 100 人であったが現在は 40 名程度で高齢化が課題となっており、若い人は協会に関わりたがらない。現在の協会の仕事は大会運営が主で、指導者育成の余裕はない。 ・ソフトテニス競技においては、中学生も協会員として受け入れている。 ・ソフトボール競技においては、小・中学校のどちらも合同チームを組むのが難しくなっている。 ・競技重視ではなく、楽しさを伝える機会を作ることも大事にしたい。 ・地域を超えると、なかなか合同チームになりにくいという印象がある。 ・地域クラブ活動への移行に当たり、「経済格差」が顕著になるのではないかと心配する。 ・スポンサーのおかげで金銭的な面を何とか補充できている状態である。
(2) 各団体が部活動の地域展開に関われることについての意見
・地域クラブ活動には魅力を感じない。 ・スポーツクラブは勝ち負けがあって成長するものである。 ・学校なのかクラブチームなのかに迫らず、選択肢の一つとして考えるのは理解できるが、少子化の中で選択肢を増やすことで共倒れのリスクがある。 ・地域クラブ活動がレクレベルの受け皿であれば、市が仕組みを構築し、スクールバスも活用して展開していく方法があるのではないか。 ・活動場所の課題として、団体数が増えることで公共施設の申込みが競合してしまう。 ・クラブチームは、指導者の成果を評価する側面もある。成果を残す指導者は、人気の指導者となる視点があるが、生徒の結果である。こどもの頃に結果を出すと大人になって結果を出せない傾向があるため、成果を気にしなくていいと思う。 ・部活動やスポーツクラブでは、どうしても市民は勝ち負けの判断をしてしまうので、地域クラブ活動は、原点回帰して地域住民が主体となって市の枠組みでやるのが妥当ではないか。 ・送迎にスクールバスを活用させてほしい。 ・小、中学校の垣根を超えた活動としてほしい。 ・親の送迎負担なしで大会地や活動拠点にいかにこどもを集められるかが鍵だと思う。

・地域クラブ活動への移行により、「年代」が関係なくなることはよいことだと思う。
・少数になりすぎて地域で面倒をみられなくなると、結果的に広域の活動になってしまい、競技志向のこどもしか残らないのではないか。
・地域クラブ活動となり、広域からこどもたちが集まるとなると、時間の関係などで指導者の時間確保が難しく、指導する時間がほとんどなくなるという状態を危惧している。
・中体連は今後どうなっていくのか。中体連に所属していてもしていなくても、中総体に出られる仕組みにしてほしい。